

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学習に取り組んでいる。 ・友達の作品を進んで見ている。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組んでいる。 ・楽しい発想や技能の工夫が見られる。

☆今年度の教科の重点

- 材料をもとにした造形活動を楽しみ、豊かな発想をする。体全体の感覚や、技能などを働かせ、表したいことを、自分の表現方法で作り出す喜びを味わうようにする。
- はさみや簡単な小刀などを安全に気を付けて使い、基礎的な技能を習得する。
- 自分や友達の作品について、見ることに興味をもち、その楽しさを味わう。

☆授業改善の具体例

〈1年生〉

- ・身近な自然物や人工の材料の形や色などに関心をもち、それらを並べる、つなぐ、積むなど、体全体の感覚を働かせて造形活動ができるようにする。
- ・いろいろな道具を使う題材を取り入れ、道具の扱いに慣れるようにする。
- ・見ることに興味をもち、自分や友達の作品の形や色、表し方の面白さなどに気付けるようにする。

〈2年生〉

- ・表したいことに合わせて、粘土、厚紙、クレヨン、はさみ、のり、簡単な小刀などの身近な材料や扱いやすい用具を使用し、手を働かせて、造形活動ができるようにする。
- ・簡単な小刀などの用具を、安全に留意して活用できるようにする。
- ・自分や友達の作品について、形や色、表し方の面白さなどに気付けるようにし、友達の作品の表したかった気持ちを聞いて、楽しく鑑賞することができるようにする。

☆評価・改善

〈1年生〉

- ・身近な自然物や人工の材料の形や色などに関心をもつことができるよう、さまざまな材料を取り入れた活動を行った。
- ・道具の扱いに慣れるよう、いろいろな道具を使う題材を取り入れた。
- ・作品展示をして、自分や友達の作品について、形や色、表し方の面白さなどに気付けるようにした。

〈2年生〉

- ・表したいことに合わせて、身近な材料や扱いやすい用具を使用し、十分に手を働かせて、造形活動ができるようにした。
- ・安全に留意して活動できた。
- ・作品展示をして、自分や友達の作品について、形や色、表し方の面白さなどに気付けるようにした。

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現活動に取り組んでいる。 ・用具や材料を工夫して使いながら、いろいろな発想で表現している。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現活動に取り組み、自分なりに表し方を工夫している。 ・用具や材料を工夫して使いながら、いろいろな発想で表現している。

☆今年度の教科の重点

- 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせる。自分なりに表し方を工夫し、表現する能力を伸ばすようにする。
- のこぎり、金づち、彫刻刀を、安全に気を付けて使い、基礎的な技能を習得する。
- 自分や友達作品、身近にある作品、材料のよさや美しさなどに関心をもって鑑賞し、自分の感覚を高める。

☆授業改善の具体例

〈3年生〉

- ・材料などの特徴をもとに、組み合わせる、切ってつなぐ、形を変えてつくるなど工夫し、その形から発想してつくりだす造形活動ができるようにする。
- ・小割り（2cm×3cmの角材）など、のこぎりで簡単に切れる材料や金づちの使用を題材に取り入れ、木工用具に慣れることができるようにする。
- ・自分や友達作品のよさや面白さなどについて関心をもって見ながら、感じたことや思ったことを伝えられるようにする。

〈4年生〉

- ・表したいことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、板材などの特性を生かすとともに、水彩絵の具、彫刻刀、使いやすいのこぎりなどの用具を工夫して使い、表現できるようにする。
- ・のこぎり、彫刻刀などの用具を、安全に留意して活用できるようにする。
- ・自分や友達作品のよさや面白さなどについて、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かり、関心をもって見ながら、感じたことや思ったことを伝えられるようにする。

☆評価・改善

〈3年生〉

- ・手や体全体を十分に働かせ、表現する能力を伸ばせるよう、木や紙、粘土など、さまざまな材料の組み合わせ方を工夫して、その形から発想してつくりだす造形活動を行った。
- ・のこぎりで簡単に切れる材料や金づちを題材に取り入れ、安全に留意して活動することができた。
- ・次年度は、造形遊びや作品発表会など共同で学ぶ題材を増やし、友達から学べる場を設定する必要がある。

〈4年生〉

- ・前学年までに経験した材料や用具、板材などの特性を生かすとともに、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎりなどの用具を工夫して使い、安全に留意して活動することができた。
- ・次年度は、造形遊びや作品発表会など共同で学ぶ題材を増やし、友達から学べる場を設定する必要がある。

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・発想豊かに表現することができる。 ・これまでの経験を生かしながら、材料・用具の使い方を工夫して活動している。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを生かしながら構想し、創意工夫して表現活動に取り組んでいる。 ・これまでの経験を生かしながら、材料・用具の使い方を工夫して活動している。

<p>☆今年度の教科の重点</p> <p>○材料などの特徴を捉え、想像力を働かせて主題の表し方を構想する。美しさなどを考え、創造的な表現の能力を高めるようにする。</p> <p>○電動糸のこぎりや彫刻刀など、今まで習得した道具を、安全に留意して目的に合わせて活用する。</p> <p>○作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、感性を高める。</p>
<p>☆授業改善の具体例</p> <p>〈5年生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特徴をもとによさや美しさなどを考え、想像力や創造的な技能などを総合的に働かせて構想して表現できるようにする。 ・ 自分の表現の意図に合わせて、電動糸のこぎりなどの用具を活用し、安全に留意して活動できるようにする。 ・ 自分や友達の商品の表し方などに関心をもって見るとともに、表現の意図や特徴をとらえ、見方や感じ方を深め、伝えられるようにする。 <p>〈6年生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特徴や構成の美しさなどを感じ、つくるものの用途などを考えるとともに、前年度までに経験した材料や用具の特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせながら表現できるようにする。 ・ 自分の表現の意図に合わせて、これまで経験してきた用具を活用し、安全に留意して活動できるようにする。 ・ 自分や友達の商品の表し方などに関心をもって見るとともに、表現の意図や特徴をとらえ、見方や感じ方を深め、伝えられるようにする。また、日本や諸外国の親しみのある美術、暮らしの中の作品などにも触れられるようにする。
<p>☆評価・改善</p> <p>〈5年生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 想像力や創造的な技能などを総合的に働かせて、自分の思いにあった表現ができるよう、さまざまな材料や用具を選択できる活動を行った。 ・ 電動糸のこぎりなどの用具を活用し、安全に留意して活動できた。 ・ 今後は、自分の作品について発表（表現）する機会を設け、自分の意図や考えを伝える経験を増やしていく必要がある。 <p>〈6年生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現に適した方法などを組み合わせながら表現できるように、前年度までに経験した材料や用具を自分の表現に合わせて選択できる活動を行った。 ・ これまで経験してきた用具を安全に留意して活用させることができた。 ・ 友達の商品を鑑賞し良さを発表したり、水墨画など伝統的な日本の美術に触れたりする授業を行った。